

No.3西浦送水ポンプ・モーター分解整備工事仕様書

第1章 総則

1 適用範囲

この仕様書は、炭焼配水場内加圧ポンプ室の「No.3西浦送水ポンプ・モーター分解整備工事」に適用する。

この仕様書、設計図、設計書に記載のない事項については、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修電気設備工事共通仕様書、機械設備工事共通仕様書（該当する方）最新版に定めるものとし、その他は監督員と打合せにより決定する。

2 法令、関係規定の遵守

請負者は修繕の施工にあたり諸法令並びに関連規格に従うこと。

3 提出書類

契約事項に関する書類の他、次の書類を提出すること。

- 1) 着手届
- 2) 現場代理人・主任(監理)技術者選任届
- 3) 工程表（計画、実施）
- 4) 下請負届出書
- 5) 工事打合簿
- 6) 工事日報
- 7) 工事写真（新旧材料、着手完成、作業状況等）
- 8) 使用材料の品質証明書、ミルシート等
- 9) 試験成績表
- 10) その他必要とする書類
- 11) 完成届

4 疑義

設計図書に定める事項について疑義を生じた場合は、監督員の指示に従わなければならない。

5 機械器具および工事用材料の管理

工事に使用する各種材料および機械器具は、工程表にしたがい修繕の進捗に支障のないよう手配すると共に、品質および保管管理等は請負者において行う

ものとする。

修繕現場が隣接する場合、または同一場所において施工する別途工事のある場合は、常に相互に協調して支障をきたさないように処置しなければならない。

6 機器の機能保持

請負者は修繕完了の際、試験運転開始までの機器の機能保持に必要な措置を講じなければならない。

7 事前調査

請負者は、修繕着手に先立ち、現場の状況、運転状況、関連工事等について綿密な調査を行い、実状を把握し、監督員と協議のうえ修繕を施工しなければならない。

8 修繕用地

無償貸与以外の民有地等を利用する場合は、すべて請負者の負担と責任において行うものとする。

9 障害物件

修繕期間中、障害物件の取扱いについては、監督員の指示に従わなければならない。

10 衛生管理

- 1) 請負者は、水道施設構内又はその付近での作業に当たって、関係法令を遵守し、衛生管理に十分注意すること。
- 2) 請負者は、監督員が特に必要と認めた場合には、作業従事者について水道法第21条に定める健康診断（腸内細菌検査・腸管出血性大腸菌検査）を実施するものとし、その検査結果報告書を提出すること。（写し可）

第2章 整備

1. 整備対象機器

○送水ポンプ 1台

メーカー名：エバラ

型 式 : 200×150CHNM

製造番号 : OP681044-1/3

吐出量 : 4m³/min

揚 程 : 45m

○送水ポンプ用電動機 1台

メーカー名：富士電機

型 式 : MRA6189A

製造番号 : 7563306Y08

回転数 : 1785rpm

出 力 : 45Kw

ベアリング：D-END 6313ZZC3

番 号 N-END 6311ZZC3

種 類 : 全閉外扇型

絶縁種類 : INSUL F

2. ポンプ整備

1) 構成部品分解

2) 清掃、点検

3) 上下ケーシング内外面錆止め及び仕上げ塗装

4) 組立

①交換部品の取替

②消耗部品の取替

③組立時の各部計測

5) 芯出し据付

6) 振動、異音等の動作確認

7) グランド部の発熱、漏水量の確認

8) 軸受温度、電圧値、電流値の測定

3. 電動機整備

- 1) 構成部品分解
- 2) 清掃、点検、洗浄、乾燥、絶縁ワニス処理、塗装
※固定子コイルは巻き替えとする
- 3) 組立
 - ①交換部品の取替
 - ②消耗部品の取替
 - ③組立時の各部計測、無負荷試運転

4. 試運転調整

5. 施工

- 1) 設計図書に示された設備が、その機能を完全に発揮できるように施工し、設計図書に明記のない場合でも、当然必要なことは誠実に施工する。
- 2) 設計図書及び監督員の承認を得た承認図及び施工図などに従って施工する。
- 3) 経験豊富かつ優秀な技術を有する技術者を従事させる。
- 4) 監督員が指示したものについては、監督員の検査を受ける。
- 5) 大型機材の搬出・搬入は計画を立案し監督員の承認を得る。
- 6) 機器の据付に当っては周囲の環境に対して十分考慮すると共に、据付ける機器の性能を害さないよう水平垂直等に対して十分注意して施工すること。

6. 産業廃棄物の処理

修繕施工に伴い廃棄物が発生した場合、その収集、運搬、処分については、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」等に基づき適切に処分し、不法投棄等第三者に損害を与えるような行為のないように行うこと。また監督員の指示による場合は産業廃棄物報告書（マニフェスト）等を提出すること。

7. 施工上の注意

- (1) 修繕対象ポンプ施設は稼働中であるため停電、または設備停止作業を必要とする場合は、事前に作業計画書を作成し、監督員と十分な打ち合わせを行い、監督員の承諾を得てから作業を行うものとする。
- (2) 既設機器の改築等を行う場合には、既設を十分調査のうえ工事を行い、名称等の詳細は監督員との協議の上決定する。
- (3) 制御盤内でケーブルにケーブルマーカーを取り付けること（プラスチック製マーカーに用途名の彫り文字とする。例：No.1 送水ポンプ、水位L、水位LL）
- (4) 制御盤に施工者名、連絡先シールを貼ること。
- (5) 制御盤に図面ケースを付け、施工図・盤図を入れること。
- (6) ポンプ銘板を制御盤内に取り付けること。
- (7) 完成、工事写真は横表で撮影すること。
- (8) 各機器（制御盤等）、資材（配管、ケーブル）の単体写真を撮影すること
- (9) 着工前写真と完成写真は対比できるように撮影すること。